

研究室 からの メッセージ

136

左から 齋藤, 小笠原,
小林, 堀田, 成田

Data(2016年 3月現在)

所在地: 〒951-8518 新潟県新潟市中央区旭町通2-746

スタッフ: 小林恵子(教授), 小笠原映子(准教授), 齋藤智子(准教授), 成田太一(助教), 堀田かおり(助教)

URL <http://www1.clg.niigata-u.ac.jp/>



新潟大学医学部保健学科看護学専攻 在宅看護学・公衆衛生看護学

History and Now

どのような機関なのでしょう？

本学看護学専攻は、1881(明治14)年に開設された新潟医学校附属産婆教場を母体とし、看護教育機関として発展し、1999(平成11)年に医学部保健学科看護学専攻として学士課程をスタートさせました。2004(平成16)年に設置した大学院保健学研究科(修士課程:現・博士前期課程)においては、研究者・教育者の人材育成に加え、「母性看護」「慢性看護」「がん看護」「地域看護」の専門看護師コースを開設し高度実践看護師の育成を行っています。2007(平成19)年に設置した博士後期課程では、研究者・教育者の育成を主眼に教育を行っています。

Education

どのような教育をしていますか？

総合大学の強みを生かした多様な専門領域から看護学を学際的に学べる貴重な経験を得られる機会があることが本学の特色と言えます。多様な専門分野の科目から授業を選択し、他分野の学生とともに学習することによって、広い視野と教養、豊かな人間性を醸成しています。保健師資格取得を必修としたカリキュラムにおいては、離島である佐渡をフィールドに宿泊実習を行い、国際交流活動ではペラデニヤ大学(スリランカ)から毎年、数名の留学生を受け入れ、学生間の国際交流を推進しています。

大学院の教育も、医学、哲学、工学分野をはじめ、学際的なチームにより、研究指導を行っています。

Research

どのような研究をしていますか？

私たちは地域の人々と保健師等と協働し、実践に役立つような研究をめざしています。具体的には「子ども虐待に関するアクションリサーチ」「在宅看護におけるケア情報の共有」「保健師の専門能力開発」「精神障害者の地域生活に関するエスノグラフィ」等ですが、現在は教員共通のテーマとして「高齢者の孤立防止に関するシステム構築」を目的に新潟市の保健師、地域包括支援センター職員、地域住民と協働する研究に取り組み、その成果を地域に還元しています。これからも、研究が地域の実態や実践と乖離しないよう、できるだけ現場に足を運んで対話をし、粘り強く進めながら、互いに成長し合えるようにと願っています。

Collaboration

保健活動の現場とのつながりは？

行政の各種検討委員など施策への関与や、県や市の新任者研修をはじめ、さまざまな現任教育に関わっています。各教員が専門分野の研修会講師を担当するだけでなく、企画・実施・評価に取り組み、PDCAを循環させるように関わっています。実習においては、教員が現場を知る貴重な機会として、可能な限り実習施設に向くことを心掛け、教育と現場により循環が起こるよう、打ち合わせや報告会での指導者との対話やフィードバックを何より大切にしたいと思っています。現在、県や市の保健師が社会人として大学院で学び、現場に根ざした研究に触れる貴重な機会ともなっています。

ひとこと

幸いにも新潟県や新潟市をはじめ、現場とは実習や現任教育、共同研究などで多くのつながりができていると感じています。現場が好きで、保健師の活動に憧れ、どんなに忙しくても現場から声がかかると教員はすぐに出かけてしまうほどです。これからはさらに研究成果を地域に活用してもらえるように検討するとともに、大学が基礎教育と現任教育をつないでいける体制の検討をしていきたいと考えています。

……小林

あなたの研究室を紹介してください! 保健師ジャーナルでは、このページに登場してくださる研究室(保健師教育に関わる講座・分野・領域)を募集しています。研究室での保健師教育の特色や、研究活動、現場とのつながりをご紹介します。

応募方法 ●電話, FAX, E-mail のいずれかにて編集室までご連絡ください。掲載分には医学書院特製図書カードを進呈いたします。

連絡先 ●医学書院『保健師ジャーナル』編集室 ☎ 03-3817-5774 ☎ 03-5804-0485 ✉ hokenshi@igaku-shoin.co.jp